

研究部だより

秋田県立栗田支援学校
研究部 第7号
令和6年11月6日発行

今回の研究便りでは、10月4日（金）に行われた高等部普通科3年の全校授業研究会について紹介します。研究テーマである「自分や他者の考えに気づき、行動する姿」を引き出すための支援や環境設定が授業内で出来ていたか、協議しました。授業づくりの3つのポイントで協議内容を整理したことで、次時へつながる有効な手立てを検討することができました。

単元名	高等部普通科 チャレンジ・チームワーク・チェンジ② ～栗田祝い太鼓編～
単元設定について	<ul style="list-style-type: none">・学年合同で行う生活単元学習では、チャレンジ・チームワーク・チェンジを合言葉にして、活動に目的意識をもち、学年集団が協力して、目標の達成に向けた課題の解決を図ることを主なねらいとしている。・本単元は、チャレンジ・チームワーク・チェンジ②として、栗田祝い太鼓を取り上げる。栗田祝い太鼓の歴史や、太鼓に関わった人の思いを知ること、栗田祭で演奏すること、自分たちが知った思いや、感じたことを後輩たちへ伝えることを通して、他者と関わろうとする態度、自分の気持ちや考えを伝えようとする態度を育てていきたい。

グループ協議での意見

自ら活動し、考えることができる状況づくり



課題に対して自分の意見を積極的に発言していた
→話し合い活動の経験の積み重ね
→分かりやすい発問

協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫



友達の意見を取り入れ、インタビューをまとめていた
→グルーピングの工夫
→ポイントを簡潔に提示

多様な場や人材の活用



積極的に自分の意見を述べていた
→身近な先生へのアンケート調査
→ICTの活用

次時に向けた手立ての工夫

- ・生徒同士で学び合うために、司会者役を生徒に依頼し、話し合いの時間を少し長く設定してみてもどうか。
- ・栗田祝い太鼓のことについて伝える相手を明確にすることで、「分かりやすく伝える」のイメージが具体的になるのではないか。
- ・「まとめ」で生徒からの感想や振り返りも取り入れることで、生徒の理解が深まるのではないか。

指導助言（神部 守 副校長）

- ・「学び続ける」ために、学習への目的意識をもつことが必要である。「誰に、何を、何のために伝えたいのか」を確認すること。
- ・実態→目指す姿→本時のねらい→授業の手立てが一つのストーリーとしてつながるように考えてほしい。
- ・生徒同士の評価場面では、アドバイスをする際のポイントを提示していたので、それに沿った発問をしていくことで、アドバイスする方も発表しやすくなったのではないかな。
- ・ねらいを達成するための活動内容や手立ての吟味が求められる。ねらいを焦点化することで生徒たちも分かりやすくなり、評価もしやすい。生徒に分かりやすい表現で伝えることが大切である。